

さくら

題字 足立区長 近藤 やい

足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 中田 貢弘
編集 広報部会
発行日 2009年11月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5111



淵江第一小 5年「沖縄琉球村」 江川 慎 作

目次

全員研修会	2
自主研修	3
介護・独居高齢者等	4
介護・認知症	5
子育て応援団	6
中国帰国者	7
介護・エンディングノート	8
「さくら」アンケート結果	



皆様とともに
足立区議会議員 鴨下 稔

民生・児童委員の皆様には、日頃から区の福祉行政に多大なるご尽力を賜わり、心より感謝申し上げます。

わが国は、現在これまでに経験したことのない急速な少子高齢化が進行するとともに、景気は百年に一度と言われる経済危機に直面し、区民生活にも大きな影響を及ぼしております。こうした社会情勢の中で、活力あふれる足立区を築いていくためには民生・児童委員の皆様との協働が不可欠であります。

民生・児童委員の皆様には、日頃、地域の皆さんから高齢者問題を始め、様々な家庭問題の相談を受けられ、大変お忙しい日々をお送りのことと存じますが、今後とも区民福祉の向上のため、なお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

区議会といたしましても民生・児童委員の皆様とともに、区民の生命・財産を守り、安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、全力を尽くしてまいります。



福祉への情熱
足立区議会副議長 きじま てるい

民生・児童委員の皆様には、地域福祉の向上に向け、日々、大変なご努力をされておりました心より感謝申し上げます。

皆様とは、全員研修会をはじめ地域のイベントなど、数々の会合でお会いいたしますが、皆様の福祉に対する熱い情熱とその姿勢には、いつも頭の下がる思いをいたしております。

福祉の仕事は幅が広く、乳幼児から高齢者に至るまで、あらゆる層の方々を対象としており、その要望も多岐にわたっております。それらの要望にきめ細やかな対応をしていくためには、民生・児童委員の皆様との協力が何よりも大切であります。

区議会といたしましても、区政のチェック機関としての役割を果たし、区民の皆様への信託に応えてまいりますので、今後とも民生・児童委員の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

夏も真っ盛りの中、今年は「郷土愛」をテーマとして足立区内の民生・児童委員全員が年に一回一同に会する全員研修会を実施しました。

第一部は、オープニングとして、主任児童委員部会の小泉部会長が指導している小台囃子清栄会による迎え囃子があり、その後、獅子舞が披露されました。

飯塚江南・新田地区会長の司会で始まり、区歌「わがまち足立」の全員斉唱、宮田第三合同会長による信条朗読、宮崎会長職務代理の開会の挨拶と続き、中田連合会長による主催者挨拶がありました。大勢の来賓を代表して、近藤区長、きじま区議会副議長、川尻東京都民生児童委員連合会長、大江東京消防庁防災部長よりあたたかいご挨拶をいただきました。

その後、民生・児童委員協議会の委員活動を広く周知するため、年3回発行している広報紙「さくら」に絵画掲載を協力していただいた児童への感謝状贈呈が近藤区長より行われました。(右写真)

第二部は、安藤第一合同会長の司会のもと、郷土博物館学芸員である多田文夫先生の講演「足立の歴史について」から始まりました。縄文時代から昭和まで、足立区がいかに豊かな土地であったかを、わかりやすく、ユーモアを交えた、大



▲多田文夫先生

▼「花咲く郷土」を歌う各地区会長



▲感謝状を受けた児童と関係者

変参考になるお話でした。続いて、柳川常東地区会長のご推薦で、中根委員が民生・児童委員の活動を題材とした民生相撲甚句を創作しており、所属する「東京足立相撲甚句会」の皆様と共に披露がありました。次に、日本の伝統芸能の普及に努めており、足立区が全国に誇る若き「あべや」による津軽三味線の披露がありました。いずれの余興も客席まで巻き込んで、楽しい講演でした。

最後に民生委員の歌「花咲く郷土」を、各地区会長を壇上に迎えて全員で歌い、有賀福祉部長の挨拶で、会を閉じました。数多くの来賓を招待し、ご来場いただいたのは地域の各種団体とのネットワークをつくり、育てるという目的にご賛同いただいたからだと思います。また、今回も無事に終了できた影には、何よりも各地区の民生・児童委員の努力があればこそであり、暑さも忘れるほどの有意義な一日となりました。

(広報/9地区 秋本雅信 記)



感謝状を受けた児童へのインタビュー

区長から感謝状を一人一人に手渡され、緊張した面持ちで、ご父兄と控室に戻られたところをインタビューしました。

Q 皆さん、大きな返事をして感謝状を受け取られていましたが、今の気持ちを聞かせてください。

A 緊張しましたが、うれしかったです。

Q 学校で絵を描くことの次に好きなことは何ですか？

A 運動すること、楽器の演奏をすることです。

好きなことから勉強に繋げてくださいね。次に20号の表紙に選ばれた、猫の特徴が良く描かれていた古橋美々里さんに伺います。

Q お家の猫ですか？

A いいえ違います。

美々里さんを優しく微笑みで見ている猫の足の向きが、ちょっと逃げ足でユニークな絵でした。

それから、ご父兄の方に聞いてみると、「お子さんの絵が『さくら』に載っている事」を、知らなかった方もいて18号から20号のページを開き、お子さんとじっくり確認していました。皆さん素敵な絵を載せていただき有り難うございました。

言葉少なでしたが、大勢の人の前で区長からいただいた気持ちを大切に、勉強にスポーツに精進していただきたいと思います。

(広報/竹の塚地区 山下節子 記)



足立区は活動記録提出 100% 継続中です

3 地区自主研修「千住桜花苑」にて

4月18日、第一合同3地区で「千住桜花苑」を見学しました。「千住桜花苑」は、区立第三中学校の跡地に、要支援・要介護を受けている高齢者のため平成20年に、総合福祉施設としてオープンしました。

近藤施設長から施設の概要説明をいただき、その後3班に分かれて見学をしました。2～4階は、特別養護老人ホームで部屋は全員個室、その人らしさを大切に介護サービスをする新しいタイプでした。3階には、さまざまな器具を備えた機能訓練室、屋上には広場、緑地、露天風呂、菜園もありました。1階には、デイサービスセンター、喫茶さくらもありました。やさしい笑顔で働く職員と、一日一日を楽しんでいる利用者の様子が印象的でした。

見学会終了後、屋上でとれた絹さや入りのタケノコご飯定食をいただき、とてもおいしかったです。ご馳走さまでした。



お忙しい中、対応していただきました職員の皆様、どうもありがとうございました。

(3地区 持齋忠伸 記)

生活福祉資金研修会 シリーズ②

その資金種類としては、以下の通り多岐にわたります。

- 更生資金 低所得世帯・障がい者世帯対象
- 福祉資金 低所得世帯・障がい者世帯・高齢者世帯対象
- 修学資金 低所得世帯対象
- 療養・介護資金 低所得世帯・障がい者世帯・高齢者世帯対象
- 災害援護資金 低所得世帯対象
- 緊急小口資金 低所得世帯対象
- 離職者支援資金 失業者世帯対象
- 長期生活支援資金 低所得の高齢者世帯対象
- 要保護世帯向け長期生活支援資金 要保護の高齢者世帯対象

平成19年度償還状況(元金)としては、償還計画通りに期限内に返済された金額は6割近い。しかし、戦後以降それまでの古い未返済金額部分が大きく、全

体の償還率を下げている。

平成21年1月27日 研修会資料参照

《平成20年6月都社会福祉協議会報告より》

これらの資金貸付については、民生委員と借受人との相談・支援から始まり、委員による状況把握を通して、社協との相談援助が開始され、借受世帯の経済的自立と生活安定をはかるというものです。

平成19年12月改選に伴い、前任者からのケース引継ぎ、あるいは自分が数年来継続中のケースなど、私たち民生委員も様々です。

パネラーの実例援助活動発表者は、償還がうまくいった例でした。地域に根ざした日頃の活動が、個人と個人のきずなを作り上げて、民協・社協との協働連携となり、償還の進展にもつながるといえるものでした。

(広報/6地区 森春枝 記)

みんなのせいかわらばん 千住橋戸町自治会によるクリーン大作戦

橋戸町自治会では、平成13年より年2回クリーン大作戦を実施し、自宅周辺をきれいにしようと取り組んできました。町内を4ブロックに分け、町会役員を先頭に、一般ボランティア・子どもたち及び、平成14年からは、足立一中ボランティアも参加し、ほうき・ちりとり・ゴミ袋を手を持ち2時間程度行いました。



足立一中の生徒は、特に千住大橋周辺と、千住市場周辺を清掃していただき、大変助かっています。その姿を見た通行人のゴミのポイ捨ても

減り、駅周辺がきれいになりました。

最初の頃は、空き缶・空き瓶等が、特に国道沿いに多く、45リットルゴミ袋が多数必要でした。今ではゴミ袋も1袋となり、町もきれいになりました。が、なによりもボランティアの皆さんの事故が心配です。一般ボランティア・子どもたちを自治会役員が前後に立ち、自動車・自転車を誘導し、注意をしながら、ゴミ集めを行っています。町がきれいになると、ゴミのポイ捨ても減り、クリーン大作戦成功です。今後もボランティアの協力を得てクリーン大作戦を実施していこうと思います。

(千住橋戸町自治会厚生部 市川義弘 記)

取材 広報/3地区 池田信江

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり

平成20年度（平成20年4月～平成21年3月）地域包括支援センター六月における民生児童委員・あんしん協力員による相談件数（通報等）は32件あり、日々あんしんネットワークによる連携を取りながら地域の



花保小5年 玉川嵩登 作

の高齢者を支えています。この活動において、独居高齢者やその家族が、地域から孤立せず安心した生活の実現に結びついていることは言うまでもありません。

「人と人」の結び

つきが育っていかない地域では、今後、高齢者やその家族が孤立し、日々不安の中、生活していくことになりかねません。

昨年竹の塚・六月・東六月町において、地域包括支援センター六月で把握している孤独死・孤立死事例は残念ながら2件もあり、未だ完全ではないネットワークの隙間対策が急務と感じている日々です。

最近では何らかの理由で町会・自治会に属さない人々も増加していると聞いています。この現状を踏まえ地域のネットワーク活動をどう展開するか、一人でも多くの高齢者が孤立しないよう「あんしん連絡会」で、また皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

（地域包括支援センター六月

中村孝幸 社会福祉士 記）

もの忘れ相談について

足立区では、認知症高齢者が住みなれた地域で安心して生活できるようにするためのひとつの取り組みとして平成21年度から“足立区もの忘れ相談事業”を実施しています。

★ 相談を受けられる対象となる方は

- ① 足立区在住の高齢者で認知症について不安を持っている方及び家族
- ② 認知症高齢者に関わる関係者（介護事業者・民生児童委員・あんしん協力員等）

★ 相談事業の内容は

足立区医師会のもの忘れ相談医が、区内に25カ所ある地域包括支援センターで個別相談に応じます。相

談料は無料です。また、必要に応じ専門医療機関等の紹介も行います。各地域包括支援センターで年に4回予定されています。相談は、予約制となりますので事前連絡をお願いします。

あだち広報やチラシ等で日程はお知らせしますので、心配な方がいらっしゃいましたらご紹介やご相談にお気軽においでください。

（地域包括支援センターあだち
所長 有坂フミ子 記）



さくらにゅーす 落語会

昭和58年に縁あって伊興町に住み、落ち着いた雰囲気や心の暖かい人たちに恵まれて過ごしてまいりましたが、何か刺激が足りない、季節感がないと思っていました。なにせ生まれも育ちも浅草なので、三社祭、植木市、ほおずき市、羽子板市等、季節にめりはりがあり、それが当たり前だと思っていたのに、伊興町にはそれが無い。

それでは自分たちで行事を作っちゃえ、小生落語が好きなので落語会で町おこしと考えておりました。

朋友でこれまた落語好きの元足立区少年団体連合協



議会 14 地区会長坂田修氏に落語会を地域で開催するので手伝ってくれないかと相談したら大乗り気で、足立区在住の柳家メ治師匠をお世話し

落語会 / 伊興の街おこし

ていただきました。会場はお寺でやりたかったので“怪談牡丹燈籠”に縁のある法受寺の難波住職に相談したところ「是非やりなさい。場所とお足は心配するな」と夢のようなお言葉をいただき話はとんとん拍子で進んでいきました。

そして、おかげさまで平成8年に念願の落語会を始めることとなったのです。

それから4月と10月の年2回開催し、毎回100名近くのお客様が来場して下さいます。特に印象ぶかいのは10回記念でメ治さんの師匠に当たる小三治名人においでいただいた時は感無量でした。

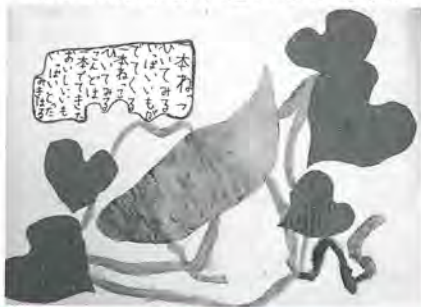
また小生の菩提寺である隣の正安寺でも平成18年から1月と8月に開催することができ、伊興町は春夏秋冬落語を楽しむことができます。笑いは健康の素、笑顔で笑いのあふれる街になるようこれからもがんばります。

（青少年委員 吉川輝雄 記）

取材 広報 / 15地区 北川富美子

足の小指の怪我をして、歩くのに大変苦労したことがあります。普段あまり使わない身体の一部でも、使えないととても不自由さを感じます。まして脳がダメージを受けた場合、影響は計り知れません。

認知症について6月3日高齢者福祉研究部会で認知症高齢者グループホームこもれば前施設長和田行男先生のお話を聞いてきました。認知症といっても色々な原因があるようです。その中で全体の半分を占めるアルツハイマー型。記憶の貯金箱である海馬が壊れてしまい記憶障害が起こるのです。レビー小体型認知症



淵江第一小 2年 櫻井樹春 作

は、歩行障害が起き、転びやすくなったり、見えないものが見えたりします。そして脳血管障害が原因となる場合もあります。多発性脳梗塞などは、高血圧、高コレステロール

といった成人病にならないことも大切です。

いずれも色々な問題行動を起こしてしまいます。料理が作れない、何回も同じことを言う、自分の夫や子どもさえ認識できず、約束したことを忘れてしまう。計算ができなくなり、社会のルールなども分からなくなる。財布を盗まれたと言いだしたりする。

こうしたことが突然すべて起こるわけではありません。今までできたことが徐々にできなくなり「何か変だ」と気がつくのです。その時強い孤独感があるのだと思います。一人暮らしのお年寄りが味わうこのような孤独感は、想像以上の辛さであると思います。

そのような時、地域の人達はその辛さを受け止めてあげられたら、と思うのです。介護する側も一人で抱え込まず、チームで対応することが大切です。家族、ケアマネージャーや包括支援センターとも連携し合い、民生・児童委員もその輪の中に入ってゆく。皆が同じ方向を目指すことで、お年寄りが一人で生活できる温かい社会が実現できるのだと思います。

(広報/10地区 川島恵美子 記)

竹の塚地区 自主研修

4月22日、社会福祉法人「あだちの里」が運営する竹の塚総合支援センター「希望の苑」への見学会を開催いたしました。施設の目的は、18歳以上の知的障がいの方に、健康で楽しく自立した地域生活を過ごしてもらえようとする事です。そのために地域に開かれた施設を目指し、平成19年4月竹ノ塚北小学校跡地に開設されました。月曜から金曜まで、福祉バスを利用し、60名の方が通所しています。各々のグループに分かれ、能力・適正・希望に応じたクラブ活動も行われており、トランポリン・スイミング・カラオケ・絵画等に、週交代で参加しているそうです。

概要説明していただいた後、見学に向かいました。とても素晴らしい立地条件に恵まれていました。一日も早い自立を願いたします。



見学後、入所の人達と同じ昼食を御馳走になり、その後、研修会場へ移動しました。一日有意義で実の研修でした。

(竹の塚地区会長 浅井米子 記)

伊興の街おこし

雅楽の夕べ

雅楽といえば、皆さんよくご存じの越天楽（えてんらく）などが、笙（しょう）や箏（しちりき）、横笛（おうてき）の三管の美しい音色で、お正月に演奏されるのを聞いたことがあると思います。

雅楽は5世紀から6世紀にかけて大陸から伝えられています。701年、大宝律令の制定に伴い「雅楽寮」が置かれ宮廷音楽となりました。現在は「宮内庁雅楽部」となり、当時のままの幽玄の調べを伝えています。数年前、この雅楽の演奏が聴けないかという話が、東伊興住区センターの事務局からありました。ちょうど伊興の寺町でそれぞれ雅楽を習っている仲間がいたので聞いてみたところ、やってみようということになりました。

その年の夏休みにはじまって、早7年、7回目の演奏を聞きました。毎年8月末の土曜日の夜に開催しています。

雅楽はなかなか聞く機会がないために、年に一度の演奏会を楽しみにしている人も多く、毎年来てくださる常連さんも増えました。毎年違う曲を入れ替えて演奏し、「千の風になって」などの歌に雅楽の伴奏を付けて皆で歌ったりしています。演奏を聴く方も、真夏の宵に時を超えた雅な一時を、一緒に楽しんでいます。



(善久寺 福島光信 記)

取材 広報/15地区 北川富美子

「フレンドホーム」という児童施設の子どもを預かり、家庭体験をさせるボランティアに参加しています。クリスマスや正月でも帰る家のない子をひきとり、孫と一緒に過ごします。子どもを預かり、しみじみ思うのは親の愛情の希薄さです。子どもの生み出し、子育ての放棄、虐待等、これは子育て以前の問題と心を痛めています。



花畑小 6年 原 有紀 作

私の場合、仕事にかまけ

家内に任せきりの子育てでした。

しかしその二人の娘も、保育士や看護師となり、幼い子どもや病に倒れた人のために、子育てしながら努力しています。娘たちの幼い時には「こういう大人になってほしい」という願いを、いつも持っていました。それは「世間で孤立することなく皆さんの輪(和)の中に入って、一生を送ってほしいということ」です。それを叶えるためには、世の中楽しいこともあるけれど、辛いことの方が多いということを理解させ、親として目一杯の愛情を掛けてやることだと思いました。

確かにいま娘たちは、私の願いを叶えてくれているようにも見えます。とはいえ、人生これから何があるか判りません。答えはまだ先のことです。

(10地区 堀口勝廣 記)

足立区教育相談センター見学 6月10日

学校・家庭における幼児・児童・生徒等の教育についての相談を実施し、区の学校教育・家庭教育の充実及び振興に寄与することを目的として設置されました。このセンターは、5月18日にオープンし、場所は西新井駅から徒歩5分の所で、地上5階建て、区民の方が気軽に利用できる施設です。

教育相談センターは、昭和48年、竹の塚に教育センター開館準備室を発足し、昭和49年、足立区教育センターとして開館されました。

平成19年、施設の老朽化により、移転先施設の新築工事を着工し、平成21年5月、新教育相談センターが開設されました。

職員の方に説明を受けながら、各階を案内していただきました。5階は研修室になっており、区民の方のコミュニティ会議などに利用できます。4階にはチャレンジ学級(適応指導教室)、3階はプレイルームや

相談室があり、子どもが遊べるように設備が整っています。2階は教育相談センターの窓口、1階はお年寄りの総合相談窓口の基幹地域包括支援センターや子育てサロン梅島があります。



チャレンジ学級の生徒達が、先生方と一緒に楽しく卓球をしている姿に心を癒された思いで相談センターを後にしました。

足立区教育相談センター

足立区梅島3-28-8 03-3852-2861

(広報/14地区 阿部美代子 記)



花畑小 4年 高橋 萌 作

東綾瀬中学校

宿題が 此のせに無ければ 良いのにな
三年 佐々木めぐみ

かき氷 みんなの笑顔 困ってる
三年 刑部葉月

のぞきみた ガラスの底に 君の顔
三年 小野亜希

真夏日に うちわ片手で エロロロ
三年 宇井 望

あずなりの 真っ赤な顔の ミニトマト
三年 阿部祐美

はじけとぶ 満開に咲く 大花火
三年 杉山嘉大

中学生俳句川柳コーナー

災害時一人も見逃さない運動

先の戦争では、国内でも戦後の混乱、肉親との離別、食糧不足、不衛生な環境など多くの方が苦勞されました。しかし、中国残留邦人、樺太残留邦人の方々は、それに加えて、習慣の異なる異文化の中、日本人に対する偏見と差別もあり、筆舌に尽くしがたい苦勞をされました。国内では、戦後の復興から高度経済成長へと発展してきましたが、国際情勢は東西冷戦下にあり、日中関係、日ソ関係も悪化し、中国からの集



淵江小 3年 小野寺千尋 作

団引き揚げは、1958（昭和33）年に打ち切られました。さらに中国では文化大革命も起こり、中国国内も混乱していました。こうした中で、残留邦人の方々

は強い望郷の念を抱きながらも、それを果たせず、いつか帰国できる日を夢見て、必死に生き延びてきたのです。

1972（昭和47）年に、日中の国交が正常化され、初めて上野動物園にパンダが来ました。中国では、残留邦人の方々の帰国への期待も高まり、日本国内では、中国に残された子どもや兄弟の消息を確かめたいという活動が起こりました。しかし、日中両政府とも、肉親探しに積極的でなかったため、日本からの訪中は1980（昭和55）年まで遅れ、ようやく1981（昭和56）年からは、当時の厚生省が中心となって、残留孤児の訪日肉親探しが始まりました。

多くの残留孤児が日本を訪れ肉親を探しましたが、肉親と再開できた者、肉親が見つからなかった者、日本への帰国を望む者、中国での生活を選ぶ者など、人さまざまでした。残留孤児となってからの歳月は、あまりにも長すぎたのかも知れません。

（足立区福祉部自立支援課 記）

街かど福祉（コンビニ編）

少し前まで、若者の社交場であったコンビニが、今や様変わりしています。近くの銀行がなくなり、高齢者にはお金をおろすことも大変になってしまいました。しかし近くのコンビニに行けば、孫のような店員さんに、優しくATMの操作を教えてもらえます。

昨年梅田7丁目地区のコンビニが「おでん1日千個を売り上げた」とテレビで紹介されました。たまたま民生・児童委員のお店であったためお話を伺いました。

梅田地区は高齢化率も高く、コンビニでも多くのお年寄りを見かけます。多くの一人暮らしのお年寄りにとって、手軽で心温まるおでんが人気なもの分かる気

がします。現在、お年寄り世帯の弁当の宅配もしている関係上、お年寄りとの接点にコンビニが活躍しているわけです。

また、「セーフティステーション」[※]としての役割も担ってきているとのことでした。実際に、夜中に若者が助けを求めてきたこともあるとのことでした。

これからのコンビニはスーパー・銀行・交番などの様々な役割を担い、子どもや高齢者を見守る「街かど福祉」として期待されます。

（広報/10地区 川島恵美子 記）

※セーフティステーション……

コンビニエンスストア（CVS）が良質な商品、サービスの提供に加え、地域住民、国、地方自治体の協力のもと、社会的責任の一環として「安全・安心なまちづくり」、「青少年環境の健全化」へ取組む、自主的な活動。

城北労働・福祉センターを見学して…

20年11月27日、バスにて区役所を出発、雨模様の寒い日でした。足立区の隣、荒川区南千住の俗に言う山谷地区にある城北労働・福祉センターの見学です。この施設は、昭和35年設置された東京都玉姫生活相談所を前身としており、現在は、「財団法人城北労働・福祉センター」となっています。出迎えた職員の方が挨拶の後、見学するにあたり「目と目を合わさないように」「本人の全財産で一番大切にしているものだから、荷物に触れないように」と注意を受けまし



た。また、天気の良いれば、施設には誰もいないため、かえって雨の日に、見学に来てもらって良かったとも言われました。最上階の会議室へ案内されましたが、階段途中の全ての踊り場に、荷物を抱

えて丸くなって寝ている人がいたのにはビックリしました。

会議室では、昔のビデオを見ました。現在の施設の目的は高齢化等で自立が困難になりつつある山谷地区の日雇い労働者の生活を、効率的に支援することを目指しているそうです。各階を見学すると、衣服・食事などのストックがあり、医師も交代で診療室にいらっしやるとのことでした。最後に娯楽室へ行くと、そこには仕事をもらえなかった人が大勢集まっていました。テレビを見ている人、新聞を読んでいる人、ラーメンを食べている人、コンクリートの床に寝ている人、私達はその間をぶつからないように、目を合わせないように通り抜け、異様な情景を見ながら娯楽室を出ました。

暗い重苦しい施設見学でしたが、両国駅近くのちゃんこ屋で鍋を皆で囲んだことで、冷えた体も温まり、身も心も癒されたように思いました。

（生活福祉研究部会 19地区 畔上美千代 記）

「死」を見つめることを私たちは「縁起でもない」とタブー視してきました。しかし、「死」までには至らずとも、家族や知人に思いを伝えられなくなる状態になることは、いつでもあり得る事です。それは、お年寄りだけではなく、一人暮らしの方、幼いお子さんをお持ちの場合、「もしも…」と考えると、不安で、しょうがなくなるのではないのでしょうか。その不安を少しでもやわらげるものの一つが、「エンディングノート」*の作成です。ここでは、一般に普及されている

「エンディングノート」の書き込み内容を羅列してみました。

①もしものとき

- 病名・余命の告知について
- 延命治療について
- 臓器提供・献体について
- 介護について（誰に、どこで等）
- 災害について（誰に援助してもらう等）

②亡くなったとき

- お葬式について（自分の宗教・お寺、執行責任者、葬儀社、お墓、誰に知らせる等）
- 遺言書について
- 財産について

③私の人生

- 家族・友だちについて
- 思い出
- これからについて（夢・希望など）

※最初から全てを埋め尽くす必要はありません。

※いつでも書き直しができます。

※家族で話してみることも良いことだと思います。

※自分がどのような介護を受けたいか、災害に遭遇したとき、誰に知らせ、援助してもらえるかを考えることは、相手のことを考える機会にもなると思います。（広報/東栗原地区 北村信也 記）

※エンディングノート……

自分に万が一のことが起こった時のために伝達すべき様々な事項をまとめてノート形式で記入しておくもの。



広報紙「さくら」アンケート報告

配布数 900 回答 536 (59.6%) 8/20

全員研修にて実施

関心のある記事として

- 民生委員の活動の様子
- 専門分野の方の話等

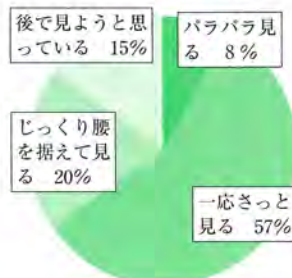
ご意見として

- 校長先生の意見や体験談
- 子供達の活動記事

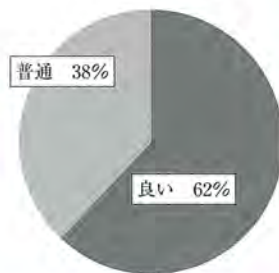
- 絵画だけでなく習字も掲載したら
- 各地区から関心のある事柄を募るようなPRを

多くのご意見・ご感想をいただきました。今後の紙面に反映させていきたいと存じます。ご協力ありがとうございました。（広報部会）

さくらの見方は



さくらの印象は



編集後記

学生時代から文章を「書く」「考える」が、苦手だった私が、何を間違えたか？ 広報紙「さくら」の編集委員になって、早2年が経とうとしています。今では、広報紙を通じて友人も増え、月1回の編集

会議も楽しくやらせていただいております。残り1年、何事もなく無事終えることが出来るよう、これからもがんばりたいと思っています。（15地区 北川富美子 記）

訃報 第二合同・神明地区 伊藤 公司 殿 謹んでご冥福をお祈りいたします

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

- 皆様の原稿を募集いたします（原稿は未発表のものに限ります）。次号発行予定日 3月1日
- 原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

広報部会

部会長	会計	校正	渡邊照美	北村信也	清水千鶴	北川富美子
高野 季	川島恵美子	田中 榮一	楠美順二	校正委員	河邊セツ	鈴木重子
副部会長	編集	秋本雅信	阿部美代子	下田尚保	井上みよ子	粟野昌子
宮本勝男	細井力造	編集委員	石鍋昭男	大久保義子	藪下奈穂美	
	森 春枝	池田信江	山下節子	大木ヨシイ	江川せつ子	